令和元年9月14日（土）
天候にも恵まれ
9時３０分開会　幼・保園、全児童、助川中学校吹奏楽部による発表。大抽選会。

市の代表鈴木保健福祉部長より褒状授与

会瀬学区「三世代敬老の集い」9月14日(土)・会瀬小体育館

出席状況（対象者は80歳以上・昭和15年4月1日以前生れです）　単位：人

地区名	対象者数（米寿）内数	出席者数		
		本人出席(%)	代理出席(%)	合計(%)
旭・相賀	99(6)	15 (15.2)	54 (54.5)	69 (69.7)
会瀬1	90 (8)	29 (32.2)	33 (36.7)	62 (68.9)
会瀬2・幸町	130 (4)	53 (40.8)	32 (24.6)	85 (65.4)
会瀬3・4, 中成沢	50 (6)	13 (26.0)	14 (28.0)	27 (54.0)
東成沢	154 (7)	33 (21.4)	53 (34.4)	86 (55.8)
合計	523 (30)	143 (27.3)	186 (35.6)	329 (62.9)

［本人出席内訳］男：62人（最高齢92歳）女：81人（最高齢93歳）

1年～3年生ダンスと肩たたきとっても上手

米寿おめでとうございます

会瀬浜太鼓に合わせて踊りも披露

今回助川中学校吹奏楽部
１，２年生の演奏

おおせ保育園（荒馬おどり）

児全童　学年による発表
６年生はふるさとを
全員で合唱♪

会瀬幼稚園
手遊びと「ぼくのしあわせのこと」表現

4年生　ハイタッチダンス

5年生　会瀬小
ソーラン

ふるさと会瀬から　会瀬旧述　その四

五奇談（会瀬浦の岩石にまつわるふしぎな話）

一、岩崎洞鳴（音が出る岩穴）　会瀬浦から南に続く岩壁の端に、波でえぐられた穴があり風雨が強く、海が荒れ大波が寄せると、穴から雷鳴が轟くような、大砲の轟音のような音が聞こえる。

※　現在の下水処理場南を流れる泉川が砂浜に出たところの崖に海蝕によって生じた直径約１ｍの空洞のことである。大波が狭い空洞に入り込むとき生じた音であろう。谷間のような地形で傾斜があり急流であることから現在の国道245号付近で聞いたと思われる。現在は空洞に砂がつまり音は聞こえない。

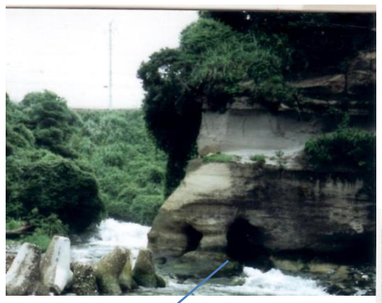
二、神磯鳴物（楽器が奏でる磯）　鵜島の周囲では三味線や鉦・太鼓・笛の音が波の音とともに聞こえたと伝えられている。神々が演奏されていると思い、これらの磯を神磯と称した。

※　鵜島の周辺の磯の一つに大門崎（おうもんざき）がある。江戸時代に多くの人に知られた門は吉原遊郭の大門（おうもん）である。遊郭の華やかさを夢想しての鳴り物入りの磯にしたのだろうか。

三、中江奇石（舟入海岸の不思議な岩）　中江の北側、伊勢崎の南には大きな岩が立ち並んでいる。巨石から少し離れて小さいが鋭くとがった三角形の岩がある。この岩に昇ろうとすると怪我をしたり病気になったりするので神が宿る石と言われる。

※　中江は現在の青少年の家グランドの北側にあった磯で、津明神社がある伊勢崎の間が舟入リ海岸（現在の海水浴場）である。尖った岩は津神社の南下に存在する。三角錐の岩であるが現在は先端部が砂の上に顔をだしている。

四、麓磯水巻（渦巻く磯壺）　伊勢崎の前方にある磯に大きな釜のように丸くえぐられた岩がある。直径1.5ｍ深さも1.5ｍもあり、打ち寄せた波は渦を巻く。神社の前なので神の手洗場といわれる。



【岩崎洞鳴】

※　現存する岩壺で波が渦巻くのは満潮時で、通常は潮だまりであった。現在は岩壺の中に岩が入っている。東日本大震災の折りに偶然入り込んでしまったと思われる。

五、初浦磯壺（浴場のような磯壺）　初磯の手前にある大きな岩には、いびつな形の壺状のへこみがある。炎暑の夏、この磯壺に溜まった海水は温められ自然の潮湯となり、湯治場のようにぎわった。

※昭和30年代までは潮湯のように利用されていたが、波の浸食等により壺も変形したがむかしの様相はうかがい知れる。

中江奇石
三角の岩

会瀬浜太鼓

8月9日日立シビックセンター音楽ホールにて第34回茨城県幼年少年女性防火・防災大会に浜太鼓14が出演し感謝状をいただきました。

子ども会球技大会（ディスク・ドッチ）

9月22日（日）会瀬小体育館にて6チームが参加して開催しました。

今年度は、単会の枠を越えたチーム編成を行い、低学年から6年生のキャプテンを中心にチーム一丸となって白熱した試合が繰り広げられ、子どもたちの躍動する姿が印象的でした（育成会　笠）

優勝Cチーム

＊ディスク・ドッチとはドッチビーとも言う。フリスビーとドッジボールの合体のゲーム